

# 令和2年度 事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

本年度はコロナ禍のため総会や各種行事をオンライン開催するなど、例年と大きく異なる学会活動となった。2年前より準備を進めてきた国際会議 Joint IcAUMS-ISAMMA2020について、苦渋の選択であったが face-to-face で実施すべきとの理事会判断により、令和6年に延期する方針となった。そのため急遽、学術講演会を初めてオンラインで開催することとなり、運営などで試行することも多かったが、一定の企画実行経験を積むことができ、研究会・専門研究会の活動にも活かすことができた。

オンライン開催した学術講演会では、前年度のMSJフェロー称号受賞者によるフェロー講演を実施し、研究者の体系的な研究成果の一連の報告がなされ大変盛況であった。また、例年好評だったポスター講演や企業展示について、今回は休止せざるを得なかったが、令和3年度以降、オンライン開催における実施形態を含め検討を進めていく。また若手研究者の論文誌への投稿を促す機会として、MSJ論文奨励賞による表彰を継続実施した。

コロナ禍の中、副会長（運営戦略担当）を中心とした広告タスクフォースでは、広告代理店との密接な連携を進めることにより、学会誌JMSJや学会報まぐねへの広告出稿の差し控えを最小限にとどめることができ、財政健全化に資する活動として一定の成果を得た。学会誌JMSJおよび論文特集号TMSJの電子化や、学術講演会概要集のWeb配信、学会報まぐねの発行費用の見直しなど経費削減を継続して進めた。新型コロナの影響のため、理事会や各委員会をオンライン会議により実施し、大幅に交通費を削減できたほか、担当者間の密接な連携にも繋がった。

そのほか、個人情報保護に関連するプライバシーポリシーの制定や、日本磁気学会主催の研究会・専門研究会・講習会等の開催判断について明文化するなど、必要な規定類の整備を進めた。緊急事態宣言中の国からの要請に伴い、新たに在宅勤務制度を創設したほか、在宅勤務時の個人情報取扱を規定するなど、事務局職員の勤務のありかたについても制度を刷新した。

## I 事業の状況

### 1. 研究発表会、講演会等の開催（定款4条1号）

#### 1.1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は当初、国際会議 IcAUMS-ISAMMA2020 と第44回学術講演会を併催する予定としていたが、コロナ禍のため IcAUMS-ISAMMA2020 は延期となった。研究成果の発表・討論の場として、同じ日程で第44回学術講演会をオンライン形式で開催した。

◎第 44 回学術講演会

期日： 令和 2 年 12 月 14 日（月）～17 日（木）  
会場： オンライン開催（Zoom ウェビナー）  
実行委員長： 中川茂樹(東京工業大学)  
講演件数： 219 件  
セッション数： 42  
参加者数： 394 名

※シンポジウム一覧

- 1) “Progresses and emerging frontiers of permanent magnet materials and high-efficiency PM motors” 参加者：65 名
- 2) “Recent applied research of Biomagnetics” 参加者：40 名
- 3) “Physics and Applications of Spin Ensemble Hierarchy” 参加者：50 名
- 4) “Frontier of magnetic domain structure analysis by data science”  
参加者：30 名
- 5) “Recent progress of spintronics and future materials” 参加者：75 名
- 6) “Electromagnetic responses in wideband from GHz to visible light region”  
参加者：30 名

※学術講演会における企業展示

本年度の学術講演会はオンライン開催となったため、企業展示の有効な開催手法が、検討時点では見いだせなかった。このため学術講演会ホームページ上でのバナー広告の対応のみとした。

## 1. 2 研究会

第 227 回から 231 回までの 5 回の研究会を、下記の通り企画・オンライン開催した。

※第 227 回研究会は昨年度開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度に延期開催した。

1) 第 227 回研究会／第 67 回化合物専門研究会

「X 線とレーザーの融合による磁性ダイナミクス」

期日：令和 2 年 9 月 28 日（月）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：20 名

2) 第 228 回研究会

「磁気計測を利用した非破壊検査技術とインフラ診断応用」

期日：令和 2 年 10 月 26 日（月）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：14 名

3) 第 229 回研究会

「テラヘルツ領域におけるスピントロニクス研究の現状と展望」

期日：令和 2 年 11 月 11 日（水）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：45 名

4) 第 230 回研究会／第 4 回磁気センサ専門研究会

「高度スマートグリッドシステム実現のための磁気センサ技術」

期日：令和 2 年 12 月 22 日（火）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：35 名

5) 第 231 回研究会

「磁気が拓くイノベーション」

期日：令和 3 年 3 月 30 日（火）

会場：オンライン開催（Webex）

参加者：44 名

### 1. 3 講習会、公開講座

当初 6 月に開催する予定としていた、初等磁気工学講座およびサマースクールを、下記の通りオンライン開催した。公開講演会については、開催を先送りすることとなった。

◎第 25 回初等磁気工学講座

期日：令和 2 年 12 月 1 日（火）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：24 名

◎第 43 回サマースクール

期日：令和 2 年 12 月 2 日（水）～4 日（金）

会場：オンライン開催（Zoom）

参加者：34 名

※公益財団法人加藤科学振興会 令和 2 年度研究集会助成金を受けて実施

◎第 27 回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

公開講演会の開催準備を進めていたが、コロナ禍による緊急事態宣言が発令されたため、本年度は実施を見送ることとした。講師や開催場所は決定しており、来年度にそのまま順延する予定である。

### 1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネ

ルギーマグネティックス専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第90回	令和2年10月5日	オンライン開催	60名
第91回	令和2年12月14日	オンライン開催	80名

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第75回	令和2年7月22日	オンライン開催	55名
第76回	令和2年9月25日	オンライン開催	85名
第77回	令和2年12月15日	オンライン開催	50名

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第67回	令和2年9月28日	オンライン開催	20名
第68回	令和3年3月3日	オンライン開催	50名

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第55回	令和2年12月4日	オンライン開催	50名
第56回	令和3年3月1日	オンライン開催	20名

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第42回	令和2年12月14日	オンライン開催	30名
第43回	令和3年1月29日	オンライン開催	48名

6) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第13回	令和2年11月18日	オンライン開催	94名

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第5回	令和2年11月18日	オンライン開催	35名
第6回	令和2年12月15日	オンライン開催	43名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第4回	令和2年12月22日	オンライン開催	35名

## 1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の国際会議を協賛した。

- 1) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2020  
(ISOM'20) ISOM'20 組織委員会  
サンポート高松 令和2年11月29日(日)～12月2日(水)  
※オンライン開催

## 1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

- ◎Joint IcAUMS-ISAMMA2020 (沖縄コンベンションセンター)  
※実行委員会を中心に開催に関する検討を進めてきたが、コロナ禍のため延期とした。
- ◎INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 令和5年5月15～19日  
※開催に向けてIEEEとのMOU締結を完了したほか、現地実行委員会と連携して必要な検討を進めた。

## 1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetics Societies)との連携

コロナ禍のため延期となった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 について、国際委員会が窓口となって今後の対応についてAUMSと連携して検討を進めた。

- ◎第22回 AUMS Council meeting (令和2年8月17日オンライン開催)  
令和2年12月に沖縄で開催予定だった Joint IcAUMS-ISAMMA2020 について、令和4年4月に延期することを提案し、承認された。さらに2020 AUMS Award, AUMS Young Researcher Award の選考方法について確認をした。
- ◎第23回 AUMS Council meeting (令和2年11月23日オンライン開催)  
2020 AUMS Award, AUMS Young Researcher Award の最終選考を行った。
- ◎第24回 AUMS Council meeting (令和3年3月29日オンライン開催)  
コロナ禍による日本の国境管理状況に鑑み、本学会が担当する IcAUMS について、令和6年へ再延期する提案を行った。ISAMMAとの共催についても、別途検討することとなった。

## 2. 学会誌の刊行（定款4条2号）

Journal of the Magnetics Society of Japan (JMSJ) を44巻3号より45巻2号まで計6回、日本磁気学会論文特集号を4巻1号より4巻2号まで計2回、また会報「まぐね」を15巻2号より16巻1号の計6回発行した。「JMSJ」は論文に特化し、英文論文を掲載した。「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文によらない論文を掲載した。また学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎にMSJ論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

### 2. 1 学会誌 Journal of the Magnetics Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
44-3	令和2年5月1日	論文6件、総ページ数 35
44-4	令和2年7月1日	論文4件、総ページ数 21
44-5	令和2年9月1日	論文3件、総ページ数 21
44-6	令和2年11月1日	論文3件、総ページ数 16
45-1	令和3年1月1日	論文2件、総ページ数 11
45-2	令和3年3月1日	論文6件、総ページ数 38

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

### 2. 2 日本磁気学会論文特集号

#### Transaction of the Magnetics Society of Japan -Special Issues-

巻—号	発行年月日	内容（詳細は各号の目次参照）
4-1	令和2年5月1日	論文22件、総ページ数 115
4-2	令和2年9月1日	論文2件、総ページ数 13

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

### 2. 3 MSJ論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和2年5月	Journal of the Magnetics Society of Japan 44-3 <修士課程の部> 東北大学 松南 諒 埼玉大学 安田直生  日本磁気学会論文特集号 4-1 <修士課程の部> 東北大学 斎藤 若 横浜国立大学 岩場雅司 東北大学 工藤春陽 東北大学 立岡大青

	東北大学 曾良大輔 東北大学 相澤拓毅 東北大学 内山裕太郎 東海大学 伊藤誉淳 九州工業大学 大古場隆士
令和2年9月	<b>Journal of the Magnetics Society of Japan 44-5</b> <修士課程の部> 名古屋大学 三輪佳嗣
令和2年11月	<b>Journal of the Magnetics Society of Japan 44-6</b> <博士課程の部> 京都大学 Tian Li
令和3年1月	<b>Journal of the Magnetics Society of Japan 45-1</b> <博士課程の部> 京都大学 Y. M. Hung 京都大学 池渕徹也 京都大学 平田雄翔
令和3年3月	<b>Journal of the Magnetics Society of Japan 45-2</b> <博士課程の部> 京都大学 石橋未央 筑波大学 小泉洗生

## 2. 4 学会報「まぐね」

巻—号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
15-2	令和2年4月1日	論説「研究の三色旗：自由，寛大，洞察」（宗片比呂夫） 特集「高周波アインスト磁気記録の現状」 解説1件、トピックス5件 初等連載講座1件 総ページ数 88
15-3	令和2年6月1日	論説「先を見通せない時代の生き方」（城石芳博） 特集「マイクロ電源に関する最新動向」 解説2件、トピックス3件 磁気研究よもやま話1件 総ページ数 62
15-4	令和2年8月1日	論説「磁性薄膜デバイスの開発とその事業化」（辻本浩章） 特集「インフォマティクスによる材料開発，物性・機能の予測・探索」 解説1件、トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 52
15-5	令和2年10月1日	論説「磁性研究を振り返って」（古林孝夫） 特集「地球に関する磁気・電磁気現象」

		解説 3 件、トピックス 1 件 総ページ数 64
15-6	令和 2 年 12 月 1 日	論説「究極の光磁気記録を目指して」(栗野博之) 特集「モータ高性能化技術の最近の進展」 解説 3 件、トピックス 2 件 総ページ数 68
16-1	令和 3 年 2 月 1 日	令和 2 年度 日本磁気学会授賞紹介 論説「電磁材料ソリューションの進展」(藤崎敬介) 特集「希土類磁石の高性能化に向けた研究の進展」 解説 1 件、トピックス 4 件 初等連載講座 1 件 総ページ数 86

副会長(運営戦略担当)中心の広告タスクフォースとともに、広告代理店と密接に協力して学会報まぐねへの広告投稿勧誘を積極的に継続実施した。広告出稿企業のすそ野を広げることができ、まぐねの魅力向上につながった。

### 3. 研究および調査の実施(定款4条3号)

#### 3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス(No.173~185)やメールマガジン(No.253~277)により会員へ情報提供を行ったほか、Facebookによる情報発信サービスを行った。技術情報サービスについては、No.183よりパスワードを設定して会員のみに周知し、会員限定のサービスへと移行した。

#### 3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

本学会が関連する分野の研究活動を活発にするため、各種会合、講演会、展示会などにおいて本学会の広報活動を強化した。ポスターや入会案内パンフレット等による会員入会勧誘を積極的に推進した。

#### 3. 3 ホームページの管理および安定運用

ホームページにてマルウェア感染を検知したため、該当ファイルを削除するとともに、セキュリティレベルを高めるべくソフトウェア環境を更新した。これにより、会員限定へ移行した技術情報サービスを、ホームページ上で安全に提供できるようになった。



#### 4. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款4条4号）

令和2年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞、新技術・新製品賞、および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。前年度より引き続き、学会賞および業績賞受賞者に対して、MSJ フェロー称号の授与を行った。同制度は、学会へのこれまでの貢献に対して尊敬と感謝の意を示すと共に、授与された者がフェローもしくはライフフェローとして引き続き学会活動に積極的に寄与することを促すことにより、学会の活性化を推進するものである。

学会賞、業績賞、優秀研究賞については中川活二委員長・宮本泰敬副委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞については小林宏一郎委員長・加藤剛志副委員長、学生講演賞、新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞については齋藤秀和委員長、の体制でそれぞれ選考を担当した。

##### ◎学会賞・フェロー

- ・太田 憲雄 氏

「光磁気記録の基礎物性および高密度記録再生技術に関する研究」

##### ◎業績賞・フェロー

- ・岩田 聡 氏（名古屋大学）

「貴金属遷移金属材料における先駆的研究」

- ・宗片 比呂夫 氏（東京工業大学）

「III-V 族磁性半導体の創製とスピントロニクスの研究」

##### ◎優秀研究賞

- ・薬師寺 啓 氏（産業技術総合研究所）

「高性能トンネル磁気抵抗素子の応用に関する研究」

- ・Pham Nam Hai 氏（東京工業大学）

「トポロジカル絶縁体による超巨大スピンホール効果の実現と超低消費電力磁気メモリへの応用に関する研究」

- ・能崎 幸雄 氏（慶應義塾大学）

「音波を用いたスピントロニクスの開拓的研究」

##### ◎論文賞

- ・T. Shimizu, M. Ohtake, M. Futamoto, F. Kirino, and N. Inaba

「Influence of Cap-Layer on the Structure of FePt Alloy Thin Film Formed on VN and VC Underlayers」

J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.109-113 (2019).

- T. Yanagisawa, Y. Yoshida, and K. Tajima  
「Study on Asymmetric Magnetic Pole Structure for IPM Motor Using Neodymium Bonded Magnet」  
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.45-51 (2020).
- S. Ota, and Y. Takemura  
「Dynamics of magnetization and easy axis of individual ferromagnetic nanoparticle subject to anisotropy and thermal fluctuations」  
J. Magn. Soc. Jpn., **43**, pp.34-41 (2019).

#### ◎学術奨励賞（内山賞）

- 松南 諒 氏（東北大学）  
「Development of Sm-Fe-N bulk magnets showing high maximum energy products」  
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.64-69 (2020).
- 小田 洋平 氏（福島工業高等専門学校）  
「 $L_{10}$  型 FePtX (X=Mn, Cu, Ru, Rh) のキュリー温度変化に関する第一原理計算」  
J. Magn. Soc. Jpn., **44**, pp.1-4 (2020).
- 武政 友佑 氏（秋田大学）  
「Fe-Co-N 薄膜への Al 添加による磁気異方性の増大」  
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.9-13 (2020).
- 岩場 雅司 氏（横浜国立大学）  
「多重マグネティック結晶を用いたスピン波スイッチング」  
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.18-22 (2020).
- 立岡 大青 氏（東北大学）  
「高周波近傍磁界測定システムにおける同期問題解決の提案」  
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.37-40 (2020).
- 大古場 隆士 氏（九州工業大学）  
「カプセル型医療機器に内蔵可能な磁気駆動細胞診ブラシの特性改善」  
日本磁気学会論文特集号 **4**, pp.103-110 (2020).

#### ◎学生講演賞（櫻井講演賞）

- 齋藤 悠一 氏（東北大学）  
「光プローブ法を用いた磁性薄膜の高周波応答の観測」  
講演番号：第 43 回学術講演会 26aE-6

- ・久松 美祐 氏 (大阪大学)  
「 $\text{Cu}_x\text{Co}_{1-x}\text{Fe}_2\text{O}_4$  フェライトの結晶構造と磁気特性」  
講演番号：第 43 回学術講演会 26aE-3
- ・松本 啓岐 氏 (東京大学)  
「フレキシブル基板上 Co 薄膜の面内二軸引張歪みによる垂直磁気異方性制御」  
講演番号：第 43 回学術講演会 25pB-3
- ・野土 翔登 氏 (北海道大学)  
「 $\text{CoFe}_2\text{O}_4/\text{Pt}$  界面における磁気近接効果の電圧制御」  
講演番号：第 43 回学術講演会 25pC-7
- ・右田 幸大 氏 (電気通信大学)  
「エンゼルフィッシュレースタックによるスキルミオンの移動制御」  
講演番号：第 43 回学術講演会 27pC-13
- ・立岡 大青 氏 (東北大学)  
「高周波近傍磁界測定システムにおける同期問題解決の提案」  
講演番号：第 43 回学術講演会 25aD-10
- ・古屋 一輝 氏 (信州大学)  
「高い温度安定性を有するリング干渉方式光プローブ電流センサの基礎検討」  
講演番号：第 43 回学術講演会 25pD-6

#### ◎出版賞

- ・多々良 源 氏  
書籍名/出版社：「スピントロニクス of 物理～場の理論の立場から～」(内田老鶴園)
- ・富田 知志 氏、澤田 桂 氏  
書籍名/出版社：「メタマテリアルのつくりかた」(共立出版)

#### ◎新技術・新製品賞

- ・田丸 慎吾 氏、菊池 伸明 氏、五十嵐 利行 氏、岡本 聡 氏、久保田 均 氏、  
吉田 栄吉 氏  
「トランス結合型透磁率測定装置」  
まぐね 15 巻 2 号
- ・佐々木 拓 氏、鈴木 浩一 氏、工藤 永知 氏、高橋 智樹 氏、三品 大成 氏、  
成田 春樹 氏、佐藤 京太郎 氏、高田 健一 氏、山田 洋 氏、佐藤 拓 氏  
「大容量非接触式マグネットクラッチ」

◎技術功労賞

- ・本年度の該当なし

◎学会活動貢献賞

- ・森山 貴広 氏 (京都大学)  
「第 43 回日本磁気学会学術講演会開催への貢献」

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力 (定款 4 条 5 号)

下記の会合を協賛した。(開催日順)

- 1) ナノ学会第 18 回大会  
横浜国立大学常盤台キャンパス  
※予稿集の発行を以って開催とする  
ナノ学会  
令和 2 年 5 月 27 日(水)~29 日(金)
- 2) 第 56 回 X 線分析討論会  
大阪市立大学学術情報総合センター  
※オンライン開催  
(公社)日本分析化学会 X 線分析研究懇談会  
令和 2 年 10 月 28 日(水)~29 日(金)
- 3) 日本希土類学会第 38 回講演会  
東京ガーデンパレス  
※オンライン開催  
日本希土類学会  
令和 2 年 11 月 11 日(水)
- 4) 第 23 回ミレニアムサイエンスフォーラム  
駐日英国大使館  
ミレニアムサイエンスフォーラム  
令和 2 年 11 月 13 日(金)
- 5) 第 30 回 RCJ 信頼性シンポジウム  
産業プラザ PIO  
日本電子部品信頼性センター  
令和 2 年 11 月 17 日(火)~18 日(水)
- 6) 第 63 回自動制御連合講演会  
黒部・宇奈月温泉やまのは、宇奈月国際会館セレネ  
※オンライン開催  
(公社)計測自動制御学会  
令和 2 年 11 月 18 日(水)~20 日(金)
- 7) 第 29 回ポリマー材料フォーラム  
※オンライン開催  
(公社)高分子学会  
令和 2 年 11 月 26 日(木)~27 日(金)

- 8) 女子大学院生・ポスドクのための産総研所内紹介と在職女性研究者との懇談会  
産業技術総合研究所  
令和2年12月14日(月)  
※オンライン開催
- 9) 第29回 MAGDA コンファレンス  
日本AEM学会  
令和2年12月22日(火)～23日(水)  
※オンライン開催
- 10) 電気学会マグネティックス技術委員会主催「ワークショップ」  
電気学会マグネティックス技術委員会  
令和3年1月20日(水)  
※オンライン開催
- 11) IIP2021 情報・知能・精密機器部門講演会  
(一社)日本機械学会  
令和3年3月8日(月)～9日(火)  
※オンライン開催
- 12) 2020年度量子ビームサイエンスフェスタ  
高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所  
令和3年3月9日(火)～11日(木)  
※オンライン開催
- 13) 第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム協賛依頼  
(公社)日本工学会  
令和3年3月4日(木)  
※オンライン開催

## Ⅱ 処務の概要

### 1 会議

令和2年4月1日から令和3年3月31日の間に下記の会議を開催した。

#### 1) 総会

本年度は令和2年6月15日に通常総会を行い、以下の議案が審議され、原案通り可決された。議案として、令和元年度事業報告、令和元年度収支決算報告、令和2年度事業計画、令和2年度収支予算、名誉会員の推薦、役員1名の退任に伴う後任役員の推薦についての議案が上程された。

#### 2) 顧問会

本年度はコロナ禍のため、顧問会の開催を見送った。

#### 3) 理事会 (コロナ禍のため、オンライン会議で実施)

下記期日に開催した。

令和2年5月25日、令和2年7月30日、令和2年9月23日、  
令和2年12月3日、令和3年2月17日、令和3年3月22日

#### 4) 諸委員会 (コロナ禍のため、オンライン会議やメール審議を含む)

総務委員会 2回、 財務委員会 2回、 企画委員会 7回  
編集委員会 6回、 広報委員会 2回、 AUMS Council meeting 3回  
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会 1回  
論文賞、学術奨励賞(内山賞)選考委員会 1回  
学生講演賞、新技術・新製品賞、学会活動貢献賞選考委員会 3回  
出版賞選考委員会 1回

#### 5) その他

本年度はコロナ禍のため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会の開催も見送った。

同様に賛助会員訪問活動も休止した。来年度以降は、コロナ状況の推移にもよるが、賛助会員の貢献に対する本学会の謝意を表す活動として再開実施する。また賛助会員と会員をつなぐ活動の一助として、学会報まぐねの「新技術・新製品」コーナーへの投稿呼びかけも継続する。

本学会の財務状況の改善を目指し、財務委員会は予算執行状況に関する情報収集と分析を進めた。学会の支出と収入のバランスに関して、予算項目ごとに検討を行い、令和2年度予算の執行状況の定期確認および、令和3年度予算案の立案に向けた提言を行うなど、種々の取り組みを実施した。コロナ禍のため各種会議や講演会等をオンライン実施したことや、まぐねの発行経費を削減できたことなどにより、令和2年度決算では大幅な赤字削減を達成したが、今後、コロナ禍による大幅な事業形態変更のリスクも想定される。財務状況の推移を注視すると共に、支出の削減と収入増の方策を継続検討する。

## 2 契約に関する事項

### ◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
令和 3 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年※
平成 29 年 4 月 1 日	学術著作権協会	複写に関わる権利委託	5 年※
平成 29 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 2 年 4 月 1 日	学術情報学研究所	電子図書館サービス	1 年※
令和 3 年 2 月 1 日	文野公認会計士事務所	決算の監査	1 年
令和 2 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年※
令和 2 年 7 月 1 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和 2 年 12 月 10 日	(株)国際文献社	日本磁気学会報印刷	1 年※
令和 3 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年※
令和 3 年 1 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年※
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE	National Society Agreement	3 年
平成 31 年 1 月 1 日	IEEE Magnetics Society	Sister Society Agreement	3 年

※は自動更新の契約

## 3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 3 年 3 月 3 1 日現在)	前年度末現在 (令和 2 年 3 月 3 1 日現在)	増減
正会員	1, 1 4 0	1, 2 0 6	- 6 6
賛助会員	6 5	6 7	- 2
学生会員	3 0 5	3 5 5	- 5 0
名誉会員	4 4	4 5	- 1

## 4 事業報告の内容を補足する重要な事項

令和 2 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。